京城新聞

耳聞錄

勸業博物館

一記者

世人も知つての通り勸業博物館は農商工部の附屬として開設されて居るのである、全般の規模設備は極めて小であるが此れは未だ始まつた許りであるから今の所遽かに大を望むのは無理でマヅ當局者にても追々と擴張して行くことであらう、所で記者近者同館を訪ひ主任森氏に面會して之が近來の狀況に就て尋ぬる所あつたが氏は懇切にも多忙中隙を割いて記者の問に答へて呉れたのは記者の吳々も多謝する次第である、「御承知の通り勸業博物館の開設されたのは五月一日で……其の以前は農商工部の裏門の所に設けてあつたのです、何にしろ御覽の通りの小さい建物で從つて陳列品も未だ整つては居りませぬがマツ此から着々と完成を期して行く考へです、否な博物館といふと大層仰々しく聞へますが其の內容は商品陳列館で丁度母國の農商務省附屬の商品陳列館と同じやうな譯なのです……現今品物の陳列數ですか……左樣悉皆で三千點許りもありませう、而して是等の品物の中三分の二は農商務省の商品陳列館より取り寄せたもので三分の一は朝鮮產出のものですが其の朝鮮の產出品は重もに礦物が多くを占めて居ります、何れ當館は來る四十三年度には韓國大博覽が開催されますから其の時は之が閉會を待つて其の後の建物を使用したいと思つて居ります本年中に於ける擴張ですか……ソレはトテも豫算が許しません、タトヒ小擴張にした所で來年に這入らなければ實行は覺束ないのです、次にた尋ねの商品の賣却は未だソレ迄に手が運んで居らず、唯今の所では一般に觀覽をさせるのみです、左樣觀覽人の數は五月中は一日平均九百人許りありましたが六月に這入つてからメツキリ殖ゑ一日平均千二百人の割合となりました……尤も御覽の通り見た所で更らに要領を得さうにもないチゲクンの子供見たやうなものも這入つて來ますが併し要は文明の智識を開發させる爲めですから甚麼なものでも一人でも餘計に見物して呉るゝを本懷と思つて居ります云々」

●外國貿易旬報(下)

(七月上旬關稅局調査)

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

前年一月以降本旬迄の累計

港名	輸出額	輸入額	計
	圓	圓	圓
仁川	一、九五二、五九八	一〇、〇〇三、四九〇	一一、九五六、〇八八
釜山	三、〇二七、六二〇	三、三二〇、一二〇	六、三四七、七四〇
元山	五六四、二〇三	一、四九三、一一五	二、〇五七、三一八
鎭南浦	八五五、六六九	一、八四八、七六〇	二、七〇四、四二九
京城	八、四六四	二〇五、一二四	二一三、五八八
群山	一、一四七、九八九	三二〇、八五五	一、四六八、八四四
木浦	六〇四、六〇〇	三一三、〇七六	九一七、六七六
馬山浦	一三三、四三三	五七五、二四一	七〇八、六七四
淸津	—	—	—
城津	八六、〇九二	一一一、八四七	一九七、九三九
新義州	一九二、八八九	二五九、二七一	四五二、一六〇
計	七、五七三、五八六	一九、四五三、〇四九	二七、〇二六、六三五

●●●●●輸出重要品表

品名	本年分	前年同期
	圓	圓
米	二〇三、〇六八	一八三、一四三
大豆及小豆	五一、一九一	三八、三二〇
鮮魚乾魚鹽魚	三、〇七七	六三、八〇三
牛皮	六、八六四	四、二六〇
人蔘	—	—
棉花	—	五〇五
生牛	三、三七三	九、八三三

●●●●●輸入重要品表

品名	本年分	前年同期
	圓	圓
食鹽	一五、三二七	六、九九八
砂糖及精糖	二〇、九七八	一九、三一五
清酒	一一、一二八	三、三八四
石油	二、一三二	一三三
打綿	三、〇五六	二、〇四〇
綿糸及綿織	六〇、二〇九	四三、六三〇
生金巾	一九、五〇四	二六、一三六
シーチング	三三、三三二	四、二五七
晒金巾	五四、五六一	三、三五〇
日本木綿	六、七三〇	二六、一四三
麻布	三、八〇六	九、一三六
絹布	一三、二二三	七、三九三
紙	三六、一一〇	二四、〇六二
石炭	二六、八九〇	三四、四九八
熟鐵	一〇、〇三六	二五、〇九八
煙草(葉莨を除く)	[illegible]	八一、四六一
木材(鐵道枕木及板を併す)	[illegible]	二六、九四四
セメント及石灰	六、〇五五	八、六三〇
マッチ	三、七六四	[illegible]

●六月末仁川在庫品

(種目)	(單位)	(數量)
和金巾	反	一五一個
洋金巾	同	[illegible]
晒巾	反	[illegible]
紡績絲	梱	[illegible]
打綿	斤	[illegible]
韓木綿	疋	[illegible]
韓麻布	疋	[illegible]
吳服太物		[illegible]
羽紬	四十反入	[illegible]
毛氈		[illegible]
精白米	五斗入	[illegible]
白米	七斗五升入	[illegible]
玄米	五斗入	[illegible]
糯米	七斗五升入	[illegible]
粳米	五斗入叺	[illegible]
大麥	八斗入叺	[illegible]
小豆		[illegible]
大豆	五斗入叺	[illegible]
綠綿	同	[illegible]
木板	同	[illegible]
晒綿	同	[illegible]
鐵板	六十疋	二、八九七束
薄鐵板		二、五九〇
シヨベル		—
リベット		三三五罐
亞鉛板		二、七一六五
蕎麥	五斗入叺	四四二
雜穀	粉米入	一四〇
糠	五斗入	〇
繩	百斤束	三、七二三〇
繩叺	三十枚簇	六六四〇
明太魚		二〇〇〇
若目	斤	四五三七
洋蠟	箱	—
硝子	個	一、〇五七
韓紙		四一三〇
砂糖	百斤入	三六〇
麥粉	袋	二一八
素麵	箱	—
疊表	束	一、〇一五束
官製口付		一八
官製兩切(刻)		一三八
煙草金口煙草	三萬本	七八
煙草葉卷		四八
煙草刻莨		—
煙草韓葉		九八
煙草支那葉莨		一〇六
牛皮		二〇〇
麥酒		四六九
藥種		二六八
雜品		五三〇

小說 新不如歸

(五十五)

篠原嶺葉著

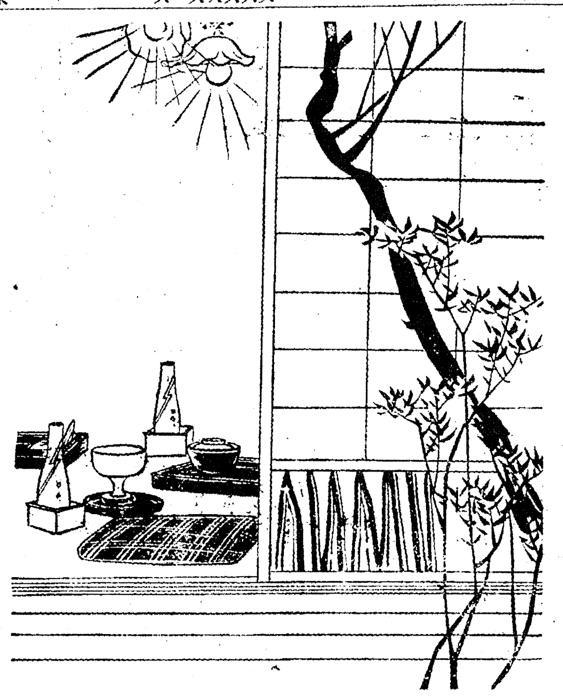
足柄は四邊に氣を配つて、そして一層小さな聲で、

「其の方法は二つあるんですが、若し一つを行つて旨く行かない時は、最後の手段に訴たへる決心ですが、其の方法と云ふは恁う云ふ方法です。」

と、やゝ聞く物語つたのであるが、あまりに小さい聲であつたから、其方法は聞ねなかつた、二人は頻に首肯いて、時々は微笑さへ漏らして聽いたが、話が濟むと共に言合はした如く三人其顏を擧げた。

すると奈加子は莞爾と笑つて、

「では、足柄さん、貴方はこれから行つて、れ遊び下さいな、私も後から追つて歸つて參りますから。」



「では、これから參つてれ邪魔致ませう。それにしてからが、モウ一二杯頂いて行きませうよ。」

「さあ〳〵、一二杯と有仰らずに澤山召上つて被入やいまし。」

と、奈加子が酌をすれば、足柄は二三杯續けさまに傾けて、

「あゝ、これで大分宜い心地になりました、では僕は馴染の藝妓が外に行つてるので、それを待つてたのですが、モウ斷つて歸る事に爲ます、まあ〳〵貴方がたは御寬くりされ樂しみなさい、はゝゝゝ。」

と、身を起した。

「どうせ恁う云ふ秘密を見付られたんですもの、何さなりとれ冷評なさいまし。」

と、奈加子が云へば、猿渡は、

「貴方だつて、これから行つて甚麼た樂しみがあるか知れたもんぢやありませんよ。」

奈加子もまた、

「然うですとも足柄さんの事ですもの、誰に遠慮があるではなし、甚麼となさるか知れたもんぢやありませんよ、しかしおんまり亂暴な事をなさいますと、後で私が困りますから、た手柔にれ願ひ申しますよ、ほゝゝ。」

「大丈夫ですよ、昔から敵役に色情が能たためしなしですから、はゝゝゝ、ではれ先へ失敬します。」

「宜しく願ひますよ。」

足柄は其まゝ宜を出て、勘定など濟した後三河家を立出た。

後で二人は言ひ合したやうに顏を見合せてそして互に苦笑しつゝ、

「本當に驚きましたね、私彼の人の顏を見た時は生てる氣はありませんでしたよ。」

と、奈加子は先づ恁う云つた。

「物に頓着せん私も、今夜ばかりは驚きました、まるで演劇にでもあるやうな工合で夢にも思はん所から出て來るのですもの……。」

「眞個ですよ、彼の人が隣座敷に居るやうなことは、思つても見ない事ですからね、しかし奈何すれば可いでせう。」

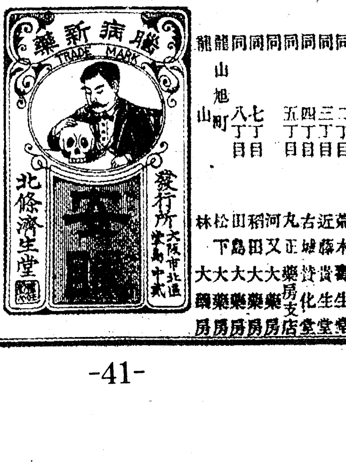
「意外だ人に見付りましたね。」

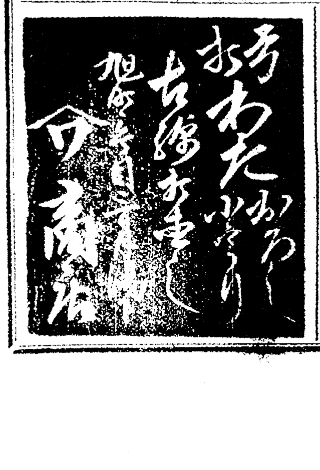
と、屈托顏して猿渡の顏を見た。

「眞個意外だ人に見られましたよ、ろりや私から言へば二人の關係は口外するやうな事はありませんが、其代り這麼秘密を握られた限りは先づ二千と三千の金子は當然のやうに借られるんですから堪つたものぢやありません。」

「どうぞ、まあ金子で口が留られぬ事なら後生ですから留て置て下さいよ、で然ければ私生て居られないのですもの。」

かくて二人は聞く話た後、何れに消ねたか姿は見ゑず、唯電燈の光のみ煌々と室內を照して居る。





（二）（第三種郵便物認可）明治四十一年七月十七日　京城新聞　（金曜日）　第十一號

京城新聞

滿韓共通の經營

後藤男の入閣せられてより、滿鐵總裁の候補は頗る世の注意を惹起するに至れり、今や其候補者として數へらるゝは中橋德五郎、田健次郎、清浦奎吾等なりとす、何れも其材幹技倆に於て未だ以て適任と云ふ可らず、一說には暫く後藤男之を兼任し兩刀を使ふべし、之を事實とせば甚だ不可なり、滿州の經營は韓國の經營と相俟て大に發展を計らざる可らず、滿韓經營の如何は帝國前途の運命に關する大問題と云ふも敢て過言にあらざるべし、宇內の形勢より考るに帝國の外に發展すべき所は滿韓を措て何處に求むべきや、帝國民膨脹の平和的施設は滿韓に依らざる可らざるは既に內外人の認むる所なり、內政の事忽にすべからずと雖も、年々膨脹する我民族の發展地を開拓するに非ざれば危機は其處に伏在するなり、社會主義の如き忌むべき徒黨の起るは人口過剩なるの結果從て生活難より來る者多からむ、歐米列國が競ふて殖民政策に熱するも畢竟之が爲に外ならず、大勢既に斯の如し、殖民政策は帝國の最急最大問題なり、此際に於て重要なる滿鐵總裁には適材を得て專任せしめざる可らず、桂內閣の對外政策は必ずや強硬なる態度を以て施設せらるべしと雖も、余輩は更に一歩を進めて滿韓の大經營に着手することを望むなり、伊藤統監の辭職說も愈々事實ならんとのことなれば、之を機會に滿韓經營の主腦を一つにして敏活なる行動を取るを要す、從來の如く我は我たり、汝は汝たりと云ふが如き働きにては到底帝國の海外政策を圓滿敏捷に經營する能はず、双方互に覇を稱して讓らざる如き奇異なる現象を見るなり、滿州經營と云ひ、韓國經營と云ひ何れも其目的とする所は一なり、其間何等軒輊する所なし共通經營は當然のことにして今日迄之を行はざるは何等の理由に依るか余輩は甚だ怪訝に堪へざるなり、共通經營の當然たるや論を俟たず、然れど唯漫然共通經營の妥協をなすのみにては實際に遭逢する場合困難あるべし、之れ其主腦を一にする必要あるなり、滿韓を總括する植民大守の如きものを置かざる可らず、斯くすれば滿鐵總裁にも、韓國統監にも第一流と稱する高位の人を以てせざるも可なり、材幹力量だにあらば三流四流の新進人物にて可なり、却て其成績は新進の人物に依るの優れるものあらむ、今は實力の時代なり、尊爵高位の招牌のみにては其實績は擧らざるなり、斯の如く滿韓經營の主腦を一にして統一ある共同經營をなさば、其面目を一新して意外の効績を擧げ得べきやも知る可らず、統監の更迭、滿鐵總裁の缺員此機會に共同經營の案を決するは最も當を得たるものと信ずるなり、

●對星樓茶話

△御用子の傳ふる處によれば統監府唯一の俊才鶴原君も辭職する節無きにしもあらずと承はり候、只だ同君が餘り目醒ましき功業も無く、計畫も無く、亦日銀大市以來の手腕も振ふ能はずして御用子の傳ふるが如く或は奸物視せられ、或は仇敵視せられて辭職すること極めて同君に取りて遺恨の事なるべしと深く察候、長官就任匆々の際に於ける舊人罷逐、統監萬能の政策も今日となりては一場の夢の如く、吾人は同君の如き俊才が何等の功勳無くして辭し去るを深く嘆息致候

△統監公去りて南山の驚亦た人物角逐の相場を見るに至る可く、最早帝國政策の發展こそ望ましけれ、人物角逐の發展などは天下擧つて飽き果て候、岡君の內部次官、木內君の農商工部次官乃至倉富、小宮、荒井、各次官、宜しく其職責の重大なるを自覺相成ヨボ大臣などに屁込ませられぬ樣深く爲邦家祈入候

△近來宋秉畯君の樂室氣焔も仲々盛なものにて候、同君の談話なりと聞及候頃日財務當局者に向つて一千萬圓外債の起債を勸めたる由、若し同君に向つて三千萬圓の不換紙幣政策や彩票局などを相談致候はゞ乾度大贊成の事と存候

△金元老の日本旅行に就て韓人は二個の觀察を下しつゝあり、其一は統監は金元老を以て李完用內閣の後繼たらしめんが爲めに同道したる也と其一は統監は操縱鎭撫の木鐸に使用せんが爲めに連れ行きたる也と何れも韓人の外交的觀測にして其裏面に於て韓人の特性的毒味を含有すること御氣付相成度茲に御吹聽致置候

東京電報

▲後藤遞相の病氣

後藤遞相は急性腸カタルに罹り赤十字病院に入れり容態輕からず

▲間島問題の談判

支那政府より間島境界に關する回答を提出し來れるに付伊集院公使の赴任と共に來月早々談判を開始せらるべし（以上十五日發）

▲進步黨の接近

新內閣の政綱に對し進步黨動搖を來し何となく接近せんとするの色あり

▲無所屬議員の旗幟

無所屬議員は非增稅非募債の政綱の下に戊辰俱樂部なる一團を組織せんとす

▲暗殺陰謀發覺

波蘭にて露皇帝を暗殺せんとして發覺し百五十名の嫌疑者捕縛せらる（以上十六日發）

雜報

●地租徵收內議

韓國政府にては邦人及各外國人の所有する宅地及其他の土地に對し地租を課せんとし目下內議中なりとの事なり

●地券の發給

從來行はれ來りつゝありたる土地證明規則は梅博士の案出に係る一種の變法なるが豫て噂ありたる如く韓國政府に於ては近々新法律を發布して外國人の土地所有權を確實ならしめ同時に內外所有者に向つて夫々地券を發給せらるべしと云ふ

●一銀券に關する諭示

來る八月一日より第一銀行發行の一覽拂券新舊引換を開始するに就ては韓人中無益の疑惑をなして恐惶を起すものあらんことを慮り韓國政府に於ては數日前內部大臣、觀察使及郡守等を以て人民に向つて夫々諭示せしむるところありたりと云ふ

●普通學校教監會議

既報の如く官公立普通學校教監五十六名は訓導三名及び師範學校學監（何れも日本人）は一昨日より十八日迄官立師範學校に於て會議を催す一昨日は午前九時開會別項記載の諮問事項の一部を議し同五時散會す昨日は八時半開會學部大臣同次官の臨席あり大臣は別項の訓示演說をなし此れに對して江景普通學校教監小佐々峯太郎氏韓語を以て答辭を述べ終りて諮問事項に答へ午後五時散會す明日は俵次官の訓示演說ある筈

●副統監の訓示

曾禰副統監は十八日午前九時より別項普通學校教監會議のため來京せる教監一同を統監邸に參集せしめ教育に關する訓示演說をなす筈

●學部大臣の訓示

別項普通學校教監會議に於ける李學部大臣の訓示演說は左の如し

今回教監諸子と會同して親しく卑見を述べ又諸子の意見を聽く事を得るは本大臣の欣幸とする所諸子は再昨年九月昨年四月及び本年五月の三期に於て我官立普通學校の教職に從事せらるゝ事となれり而して第一期及び第二期の諸子に對しては昨年四月會同の時に於て前大臣の訓示する所ありしと雖も本大臣は就職後未だ親しく諸子の總てと相見ゆるの機を得ざりしのみならず本年一月官制改正の結果諸子は一齊に韓國官と更して所任せられ其の責任一層の重きを加へたれば今回の好機を利用し左に二三の事項を擧げて特に諸子の注意を新にせんとす

一、凡そ社會全般の事業に於て一致協同の必要なるは固より言を須たず殊に教育事業に於て一層其の切なるものあるを覺ゆ今や諸子は邦人教員の間に伍し相携へて以て其の目的を達成せんとす其の間言語習慣の異なるため或は感情の融和を缺き或は意思の疏通を妨げ動もすれば一致協同の美風を破る虞なきを保せず本大臣は切に此の事なきを希ふと共に諸子に對し又深く望む所なきを得ず惟ふに諸子は彼等に對し先覺者として此れを指導すべき地步を占むるものなれば先づ能く彼等の意嚮を察し事の施行に害なきものは努めて其の希望を容るゝと共に時世に適せざる意見の如き反覆懇切に說示して此れを匡正誘導して諄々倦まずすべて胸襟を開き誠意を推し寸毫も誤解なきを期して萬遺漏なからしむべきなり（未完）

●教監會議の諮問案

別項普通學校教監會議に學部が諮問したる事項は左の如し

一、本年學徒募集の狀況（方法を含む）及び意見
二、各地方に支出する經費及び基本財產に關する情況如何
三、普通學校に對する地方人士の意向如何
四、普通學校の設備及び執務上に關する各教監の希望如何
五、私立學校の情況及び普通學校との關係如何
六、現行法規に對する意見如何
七、俸給手當舍宅料支給手續改正の件
八、夏季休業中に於ける學徒教養上の注意如何
九、學年初に於て學徒募集の準備のため一學年の附屬として初學の學徒を募集し主として國語漢文（入門）を教授する事となさんとす其の募集の時期如何

●移屬財產の國稅免除

驛屯土及び宮內府所管並に慶善宮所屬の土地は從來結稅を課し而かも此れが負擔は賭稅と共に小作人に在るの習慣なりしが今回右の土地を國有に移されたる結果從來の習慣に隨ふ時は人民は國庫に二重の納稅をなすが如き有樣となるを以て度支部大臣は今回各財務署に訓令を發し右の土地の結稅は總べて此れを免除する事となせり而して驛屯土の結數は概略三十六萬餘結にして國有に移されたる宮內府所管及び慶善宮所屬田沓の結數は明瞭ならざるも驛屯土結數の約五分の一即ち七萬餘結なるべく合計四十三萬餘結の稅金を免除するものにして一結の稅金は八圓なれば結局人民は三十四萬餘圓の負擔を免せらるゝ事となり國庫は夫れだけの歲入缺損を生ずる如き觀あるも此は隱驛屯土の發見及び土地の整理により優に償ひて餘りある方針なりと云ふ尙驛屯土及び移屬土地の小作料は當分從來の習慣に從ふも遠からず一般の國有土地賃借料に關する規定を制定せらるゝなるべし因みに最近の調査による驛屯土の結數は左の如し

驛土	二萬六千八百四十六結四千二負五束
屯土	九千二百七十七結九十負

●京義線の速力增加

京義線列車の進行速力は廿哩の定めなるが漸次線路の修理を計り勾配を改善したる結果近く八九月頃より之を廿五哩とし全線に於て一時間許り到着時間を短縮せしむる筈なるが猶ほ明春よりは諸般の準備に着手し雨期以後には卅五哩位の進行力を得るに至らしむべく計畫あり鴨綠江の架橋と京義線とは密接の利害關係を有し同架橋を了り京義線に聯絡一方安奉線に通ずるに至らざる以上は未だ京義線の完成せりと言ふを得ず隨て其效果を擧ぐるに至らざれば來年中には是非共鴨綠江の架橋に着手すべく計畫中なりと因に一時間卅五哩の速力を有するに到れば南大門平壤間は約四時間半にて達するを得べしと云ふ

●釜山新停車場

京釜線釜山停車場は是迄假停車場を以て充て來りしが今回新築停車場落成したるにより愈よ昨日より新停車場へ移轉することゝなりたり

●仁川民會の流會

一昨夜開會する筈なりし第二十八回仁川民會は議員中故障者多く遂に流會を見たるが本日午後八時より改めて開會する筈なり

●憲兵本部の精勵

目下暑中に際し各官衙共七月一日より午前のみの執務なるに憲兵本部のみは暑氣にも拘らず平常の如く多忙を極め終日事務に從ひ居り隊長の如きも午後七八時頃迄は執務を爲すとありと

●憲兵の入京

韓國駐剳憲兵增派員八十二名は一昨日御用船安平丸にて仁川に上陸し昨日午前仁川驛より鐵路入京せり

●補充憲兵到着

十六日補充として憲兵九十六名京城本部に到着各分隊に分配せらるゝが之と同時に從來二百有餘ヶ所の守備區は四百有餘ヶ所即ち二倍の增設を見るに至り住民の安寧秩序の保護に任すべし

●御用品とは怪

京仁商人の大打擊
第五十一聯隊總品と稱す

近時仁川稅關を經過して輸入さるゝ韓國駐剳軍納品と稱する輸入品頗に增加せり而して是等の輸入品の大部は地方に分送され普通價格より四五割方の安價を以て市場に現はれ一般需用者に販賣せられつゝあるを發見せり現に天安、鳥致院附近に御用商人の手により販賣さるゝもの多く就中清酒金露の如きは定價六十錢のものが實に四十五錢朝日仁川價格九十五錢のものが八十錢より八十五錢ほまれ清酒同五十錢內外のものを三十五錢にビールは二十錢より二十三錢內外にて何れも供給されつゝあり而して右御用商人の多くは雜貨町田文次郎、清酒宅合名會社、材木萬玉、土肥安藤等にして京城藤田米二郎、藤田某等尤も大なる輸入品を取扱ひ居れり右の狀態なるを以て普通商人連は右運賃並に稅關品と對抗するを得ず非常に一大打擊を蒙むり遂に其善後策につき仁川商人は理事廳に請願する所ありたる次第なるが兎に角名を御用品にかりて免稅輸入をなし此れを一般に販賣するが如きは法規違反は勿論商業上の攪亂を招くのみならず一般輸入貿易上に一障害を來すべきは勿論なるを以て當局に於ても之れに對して何等かの所置に出づべしと云ふ、尙輸入品納入先きは約全部が第五十一聯隊と稅關帳簿に記載しあるを忘るべからず今六月中の御用品輸入額を擧ぐれば左の如し

六月中仁川總輸入額	一三八九、八〇九圓
內日本より輸入せる者	五二六、三八六
內御用品と稱する者	九〇一、五二四

尙右御用品の內譯左の如し

被服類	五四、六八〇
飲食料品	四、七三〇
煙草	四、五六〇
建築材料	二〇、八五五
其他諸雜貨	六、六七六

●群山上旬の貿易

七月上旬に於ける群山港の輸出入貿易は左の如し

△輸出貿易

米	二萬八百五十六圓
豆類	百三十三圓
牛皮	六百二十四圓
其他	四百〇三圓
計	二萬二千〇十六圓

△輸入貿易

酒	三百〇八圓
打綿	五圓
日本木綿	三十三圓
烟草	六百七十二圓
燐寸	一千百十二圓
砂糖	八百九十圓
紙	二百十四圓
鑛	八十七圓
木材	一千二百五十四圓
其他	一萬〇四百圓
計	一萬四千九百七十五圓
輸出入總計	三萬六千九百九十一圓

●御用船一部寄港

韓國駐剳軍の軍需品全部を釜山より鐵路各地に分送する計畫ある事は既報の如くなるがさりとて今直ちに此れを實行する事は頗る難事なるを以て從來の御用船の一部を暫く使用して仁川に寄港せしむる方針なるやに聞く

●勞働會の照會

京城勞働會に於ては水道給水開始の曉は汲水夫等が職を失ふに至るを以て漢城水道會社に向ひ之れが救濟策に就て照會する所ありたり

●水道給水期

漢城水道會社にては一昨日より疏水をなして鐵管の掃除をなしつゝあるが尙英語に通ずる韓人を募集して疏水方法を傳習せしめ近々中より給水を開始する筈なりと

●營林廠長の披露宴

新任營林廠長陸軍工兵大佐時尾善三郎氏は本日午後七時より花月樓に於て新任披露のため晩餐會を催す

●學部大臣の園遊會

李學部大臣は十九日午後普通學校教監及び京城內各官立學校長同教授並に學部高等官一同を景福宮內慶會樓に招き園遊會を催す

●學部有志の懇親會

普通學校教監會議の爲め各教監の來京せるを機とし學部在勤の有志者と共に昨午後七時より清華亭に懇親會を開く

●橋本副理事官赴任

木浦理事官代理を命ぜられたる仁川理事廳副理事官橋本豐太郎氏は本日群山丸にて同地に赴任すべし

●高木事務官の出張

度支部印刷局事務官高木正雄氏は日本印刷局視察のため往復四十日の豫定にて一兩日中に出發東上す

●梶島事務官の出張

度支部事務官梶島榮孝氏は司計事務調查のため日本大藏省に出張を命ぜられ本日出發東上す

●藤原書記官の歸任

北韓地方視察中なりし度支部理財局農工銀行課長藤原書記官は十三日歸任せり

●鳥居技師の出張

臨時財源調查局技師鳥居鐵次郎氏は釀酒機械購入のため東京に出張を命ぜられ本日出發す

●陣警視の來着

宮崎縣警視より韓國警視に任ぜられたる陣軍吉氏は一昨日來着し昨日內部に出頭新任の挨拶をなせり同氏は道警視を命ぜらるゝ筈

●警部の任命

福井縣警部扶揚順一郎氏は今回韓國警部に任ぜられ判任官三等に叙し七給俸手當金年額四百八十圓を給せらる氏は地方警察署在勤を命ぜらるゝ筈

公人私人

△佐藤政次郎（木浦勸業模範場技手）　一昨日來京巴城館
△エス、エス、ホワイト（米國宣教師）　同上
△曾藤英夫（憲兵中尉）　旭旅館
△齋藤恒（步兵大尉）　九州旅館
△藤本元次郎（公州財務官）　三日月旅館
△渡邊鶴雄（辯護士）　馬山浦へ向へり

●近事片々

▲炎暑　猛烈漢城の天地寂寞無事情氣類に催し來るも責は果さゞる可らず亦窮せる哉
▲伊藤　統監歸東して漢城の政界茲暫く寂寞是よりは曾禰副統監の御手際拜見する耳
▲不言　實行は曾禰子の常に標榜する所されど時には放言せざれば人心倦むの恐あり
▲人心　の離れたる政治家に成功せるもの少し政治家には多少の芝居氣あるを要す也
▲表面　目なるグラッドストンさへに些の芝居氣はありき政治家は民心を得る必要有
▲當代　の偉人と評判さるゝルーズベルトの如きは最も多く芝居氣あり是則ち政略也
▲曾禰　子は伊公の如く毀譽褒貶に頓着せず所信を斷ずるに勇也世の子に俟つ所是也
▲大博　覽會施設に曾禰子金子會長と爭論す今や曾禰子の說卓見さして世人稱揚せり
▲金子　規模狹少千萬圓に足ると定めたが事實は曾禰子の三千萬圓ならでは施設困難
▲李根　澤近頃亦活動を始たりとの說あれども逆も成効なし宜加減に諦るが上分別也
▲幾度　諦めても政權慾は矯められざるに見へる政權は韓人の生命也死なねば止まじ
▲日韓　合同の博覽會設置は確定したるが如し豫算五十萬圓之れ大に益する所あらん
▲京城　日報子の鶴原君評は一寸面黑し冷頭硬手交際に無愛相とはチト見當違ならん
▲冷頭　は異也硬手は異ならず交際に無愛相ならず唯對手に依りて無愛相なるのみ也
▲星は　常に月前に輝を失ひ小木は多く大樹の爲に蔽はる伊公の前には光輝を失ふと
▲獨自　一己となれば凡庸に非ずと稱贊し得て妙なる哉されど既往の鶴原君は如何ぞ
▲日銀　に於ける働き振政友會總務委員關西鐵道社長大坂市長の經歷に徵すれば如何
▲既往　の經歷は未だ非凡の人物とは逆も認められぬ併一個の秀才也唯些と大を缺く
▲日本　に久しく滯在したる露國文豪ダンチエンコ其日本觀を新時報に掲載し居れり
▲所說　比較的穩當にして能く國情國民の性格を看破したり外人の說としては公平也
▲齋藤　羅太郎氏なる者四十四歲にして帝國大學を卒業せり晩學の好龜鑑深く贊稱す
▲武雷　安氏とタフト氏との競爭如何武氏近來頻に聲望を高め來る勝敗俄に判し難し
▲イン　デアナ、オハイヲ、ウイスコンシの三州擧てデ黨に傾く形勢レ黨の警戒極て嚴

雜報

●七丁目の火事

△燒失五戸 損害二千百圓▽

一昨夜零時四十五分と云ふに本町七丁目七十五番戸安藤直次郎方より出火し遂に其の板壁續きの德永慶次郎方を初め附近四戸を類燒して同一時四十分鎭火したり

△原因 は目下尙取調中なるが出火の場所模樣等より推察するに直次郎方物置きに吊りありし洋燈の火より發火したるらしく他に原因と云ふべきものなし火元直次郎の陳述に依れば洋燈は寢に就く前店員金谷理之助に命じ火を小さくなさしめ萬一の虞れ無き樣なしたりと云へど矢張り不注意より洋燈の火が油壺に入り破裂して大事に至りたる者なるべし

△失火當時の模樣 午前零時四十五分と云へば既に多くの人は短夜の夢に入りたる後にて本町通り七八丁目邊は遉がに場所柄だけに未だ素見戻りの三五人通行するもありたらん去れど直次郎方は此の時既に表戸を締めて家內一同寢に就きたる後にて家內の者は何れも日中の疲勞に前後正体も無く寢靜り居りたるに火事よ〜と呼び立つる者あるにぞスワヤとばかり主人直次郎初め一同起き出で見れば何事ぞ火事は隣り近所にてもあらう事か自宅物置場附近一面の火となりて盛んに燃ね立つ樣凄しき者ありたれば一同氣も顚倒せんばかりに狼狽して家財家具を運び出さんとしたれども及ばず此の時火は板壁一重にて仕切りある隣家德永慶次方に燃ね移りて兩家殆んど同時に天井を吹き拔きたれば家財家具の搬出は愚ろか殆んど着のみ着の儘にて一同逃げ出したり

△消防の盡力 其處は夏の夜だけありて火事と聞くや附近の者や扮裝も輕く直ちに驅け付け消防に盡力したるが轉て本町消防第一第二、皇宮警察、統監理事府等の各消防隊息せき切つて驅け付けたれど恰も此の附近は井水の不便なる場所柄とて思ふ儘の働振りも見せられず各消防隊は焦慮りに焦慮れども又如何ともする能はず斯かる間にも火は直次郎方東隣なる寺田總太郎方に燃ね移り一方裏手に廻りて宮本五郎右工門熊川松雄の兩家に延燒したれば各消防隊は遺憾の齒を喰い縛りて必死の働きをなしたれども用水の不便を如何ともする無く火は此の上延燒せんづ勢を見せたるが此の時皇宮警察の消防隊は水道消火栓を發見して之を利用し盛んに給水せしかば他の消防隊も勢を得此處を先途と送水したれば遉がの猛火も一時四十分頃に至り鎭火するに至れり

△損害價格 火元安藤直次郎方は家財家具商品何一つ搬出するを得ざりしを以て損害は約一千圓に上り其他は德永方三百圓宮本寺田方各百圓熊川方六百圓にして合計二千百圓なりと

●火事場雜俎

▲火事場の混雜 昨日午後零時四十分本町七丁目の火事の模樣は別項の如くなるが始め火元より火の上るや七丁目に据へ付けある火見臺よりは直ちに警鐘を亂打して非常を報せしが今や晝の疲れにグッスリ睡りに入りし人々は短き夢を破られスワ火事だと飛出し炎の見ゆる方に驅付け知人を見舞ふものや面白半分に出懸けし彌次馬など集り一方には延燒を恐れて家財道具を運び出すもの等其混雜一方ならず斯る所に巡查憲兵隊等も驅付非常線を張りて警戒したれば幸に怪我人をも出さざりしは何よりの仕合せなりし

▲火事場泥棒 斯る混雜を機會として泥棒を働くものの往々あるが同所に於ても泥棒一名捕はれたりとの噂ありしも確ならざりし

▲娘の行衞 火元の隣りなる德永直次郎の娘某が一時行衞不明となりたるとかにて一時は氣遣ひ居りしも幸ひに他に避難し居ること判明し安心したりと

▲消火栓の効 猛火は益々猛り狂ふも水の手不足の爲め如何に消防に力を盡すも仲々消止むべき模樣なかりしが消火栓のあるを發見し之を用ひたれば水は凄じき勢を以て噴出し左しもにも猛り狂ひし火も漸く下火となり一時四十分頃鎭火するに至りたり

▲附近の料理屋 火元の裏隣りには靑雲亭東洋樓、松の家などの料理屋ありしが就中靑雲亭は殆ど軒を接し居りし爲めアワヤ延燒せんとせしも第一消防組の盡力に依り免かれたるが同亭の酌婦等の狼狽の狀は他所の見る目も氣の毒なりし又た松の家の如きは客來ありて十二時過ぎまで三味線を彈きなどして大騷ぎせしが右の出火にて客は飛び出す酌婦は狼狽して隣家の溜突に逃げ込みたるなど滑稽を極めたり

●咽喉斬り韓人

△鮮血に染まりて△白晝鐘路を疾驅す△制止の巡査に抵抗す

昨日午前十一時四十分炎威灼くにも似て鐘路の大街は砂塵のいきれに人も電車も蒸されんする頃底事ぞ南大門通りより今鐘路に向いて手に小刀を携ね滿身鮮血に染まりたる韓人の疾驅し來るあり多數の彌次馬連其の四圍を取卷いて之れ亦疾驅する騷々しさに鍾觀派出所詰合の伊東巡査は斯くと見るより遉は捨て置くべきにあらずと直ちに追蒐けて鐘路東部の橋涯に至り追付きたれば群がる韓人彌次連を追除けて制止せんとすれども聞けばこそ口に何事か罵り立て携ねる小刀を以て縱橫無盡に四邊一面を薙ぎ拂い顏面白衣總べて唐紅の血に染まりたる形相宛ら阿修羅王の荒れに荒れたるも斯くやとばかり思はれて凄じきこと限り無し伊東巡査はさるもの素より斯程の事に避易すべきにあらざれば何も進んで取押へんとするを見たる韓人は血走る眼に睹ど伊東巡査を睨み付け何を小癪と云はんばかりに斬り付けたり之れには稍驚きたれども一方は氣も狂はしげなる韓人のこと拔劍などすべきにあらざれば伊東巡査の苦心は一方ならず何とかして宥め慷して取押へんと欲すれど如何かな耳に入るべくもあらず尙も暴れ荒ぶにぞ場所柄だけに何事ならんと韓人の寄り集る者は愈々夥しく附近は人の黒山を築くに至るより爲めに一時は電車迄が進行を停むる有樣なるより伊東巡査は氣が氣で無く取鎭め與れんと追ひ蒐けつゝ退きつれどろ〜に血塗れたる韓人と十數分の間苦鬪を續け掌に微傷を受けたるにも屈せざる時恰も巡廻中の中部警察署稱田警部銅峴署の小島部長等來合せたるにぞ三人協力辛うじて其の事に取押へたるが見れば該韓人は咽喉部に刺傷あり此處よりは尙鮮血淋々として流れ出つるにぞ取敢ず高頭盛獄醫に應急手當を乞ひたるが其の創部は深さ氣管に達する程の重傷にて多量の出血を爲したれども一命には異狀なかるべしとの事なりき然れど尙大韓病院に送りたるが大韓病院にては病室塞がり居りて入院すべからざるより已むを得ず銅峴署に一先づ連れ歸り彼の止宿先なる南部小龍洞朱大奎方に引取らしめ警察保護の許に療養せしむることゝなりたりと因に此の韓人は咸鏡道咸興郡咸興邑の生れにて雜貨商を業となし居りたるも失敗し其後は耶蘇信者となり居りたるも斯かることより精神に異狀を來たし曾て數會堂に於て亂暴を働き同地の監獄に留置されたることあり京城に來り前記小龍洞朱大奎方に投宿したるは三月以前なりしが今回も例に依りて精神に異狀を呈したる爲め斯かる恐なる暴擧に出でたるなるべしとの事なり

●ランプの火から 一昨夜十二時頃長谷川町一丁目四番戸西岡洋服店方二階に吊りし洋燈破裂して火氣蒲團に燃ね移り將さに大事に至らんとする處を消し止めたるは何よりの事なりき

●平壤の牛疫 平安南道慈山郡松店洞居住安鐘順は其所有に係る牡牛一頭を販賣の目的にて七月六日平壤西門外內川面一里牛市場に牽ひ來りたるが翌七日突然斃死せり平壤警察署にては檢查解剖の結果炭疽病と確定せり又十一日前記平壤西門外內川面一里崔珍涉所有の牝牛一頭同じく炭疽病に罹り斃死せり原因は七月七日安鐘順の斃牛を車輛に載せ運搬の際病毒感染したるものなりと云ふ

●僧尼婚姻の献議 韓國各寺院に於ける僧尼は古來相婚姻するを禁じわりし爲め尼僧侶の間には寺門の神聖をも汚すが如き所業ありしことは屢々聞く所なるが茲に康洪斗なる粹人あり僧尼の相婚を許可せんことを中樞院に献議したり其主意こそ實に面白けれ男女僧徒がひたび山門に入りてより琴瑟の樂みを知らず世意に染まず惟ふに我大皇帝陛下の化育中物として此理あらんや飛禽走獸も雌雄の樂みあり文明國の美範良規に倣ひ男女僧徒が互相嫁娶して和氣を導迎するは時宜に合したるものなりとて此献議にして許可せらるれば康洪斗も其功德を稱へられて極樂に往生するや受合なり

●娼妓規則 京城に於ける韓國人の娼妓としては二種あり一を官妓二を三牌にして有夫の賣淫者は擧げて數ふべからず其花代も亦た高きを以て內部に於ては之れが取締の爲め娼妓規則なるものを發布すべしと目下凝議中なりと

●詐欺外人の護送 韓人等より巧妙なる手段を以て莫大なる金員を詐取したる外國人中露國人二名は仁川各國警察署に於て露國領事豫審の結果重罪公判に移すこととなり一昨々日船便を以て浦鹽斯德に護送する筈又た共謀犯人たる米國人一名は目下京城に於て米國總領事の取調を受けつゝあるが兩三日中公判開廷さるべしと云ふ

●香代子の悔悟 新町遊廓松葉樓の香代子と云ふ孃子さんが今日此頃の暑氣にもめげず一生懸命鼻息吐息の御勉强振りを見て去る粹子はホンに感心すると呟やいたが夫れも其の筈香代子は松葉樓に身を沈むる以前清水さんと云ふ情夫があつて其處此處と飛び歩いて樂みを盡くし居たるが清水さんは名こそ一寸立派だが其の性質と來ては病犬よりも恐い人で可愛い香代子に世話を燒かせたることは南山の松の樹よりも數多く宿屋の支拂酒代賭事の資本と夫れは〜並大抵ならば香代子クン疾くの昔しに愛相を盡かすべきであるが其處は惚れた弱身で從來は隨分苦勢も仕盡くして終いには今の松葉樓に叩き賣られたのであるが清水さんは長年の天罰に依つて本年一二月頃南部警察の眼玉の光る刑事さんの爲め御用の一聲に度膽を拔かれ其儘詐欺恐喝取財と云ふ有難からぬ罪名の下に耻の赤い衣物を着る身となつたので遉がの香代子クン一時臍の下から玉汗の飛び出る程心配したが考へて見ると淸水さんは何處やら恐ろしい處があつたと寢覺めに思當る節があつたと見ゑて其後は朋輩が清水さんのしの字を口に出すも否や最も妾しは聞きませぬと豪い見限り方をしたが一方編笠姿の清水さんは燕ならで可愛い香代子が顏を覗きにも來ぬのに此奴的切變心しやがつた哩と憤慨しても悲しいかな身は籠の鳥ならぬ檻の虎同樣香代子に逃ふて恨みも云へぬ仕儀風の便りになりと香代子の事が聞きたいと戲言に泣はざいて看守の爲めに叱られた事もあるが香代子は最う懲り〜今の此の苦勞は誰れの爲め皆んな清水と云ふ無頼漢のれ影では無いか天地神佛も照覽あれ金輪今後は情夫を持ちませぬと堅く悔悟の臍を締め居れりとは感心〜 折角御用專一に候

●高ヨボ車夫を毆る 若草町一丁目八十七番戸神奈川縣平民菰職通稱長谷川淺吉事卯月淺五郎(三)は一昨日午後三時頃南大門驛より自宅迄韓人車夫金奉基の車に乘りたるが自宅に着いて後不當の賃金を請求したりと云ふに腹を立て金奉基を毆り付け微傷を負はせたる爲め警察に引致されて取調を受けつゝあり

●怪しいヨボ 十五日午後十時頃南部苧洞韓人家の簷下に佇む怪しき韓人あり目下警察に引致されて取調を受けつゝあるが此奴は住所不定の金漢成(二六)と名乘り居れり

●ロハ飲み 旭町一丁目大賀姿吉方店員東京生れの山川彥五郎(三二)は一昨夜九時頃より其の朋輩の岩見伊吉と共に本町七八丁目邊を素見したる末同町の末益亭事末岡桝吉方に至り夜中二時頃迄飲み續け料金三圓二拾錢を請求されしも持合が無之酢の牛蒡の申譯は亭主の聞入るゝ處とならず新町派出所に訴へられ又しても不所者存奴がと警官に引立てられて今に留置中

●篠崎商店の抽籤 本町一丁目郵便局前篠崎商店は先月來より景品附大賣出し中なりしが豫想外の好成績を以て去る十五日無事終了したるにより昨日各新聞社員立會し最も公平なる抽籤を執行し非常の盛況を呈したり因に云ふ壹等當撰二百圓にして其他當本も空籤なし尙當撰番號は別項廣告欄にあり

●本町座替狂言 本町座今夕の替狂言は一番目「鞘衛衛」にして二番目は例の電氣應用の「雪月花」なり役割の重なるものは如左 艶子(今井)あんま德の市(石卷)娘なみ(伊藤)茶亭長兵衛(葉山)國野巡査(土居)はな子(岡島)歩兵大尉大月文夫(田宮)山田新平(南鄕)遊人權次(中川)小早川春房忠助(小泉)ねね(寺西)小林芳夫、高山警部(秋山)近藤醫師(佐藤)斥候兵(北)れまつ(三浦)豐子(四位野)娘くら(島村)政藏臺灣松(白川)

●天氣豫報(自十六日午後六時至十七日午後六時)
北の風曇
十六日午前六時各地氣象概況
北又は東の風吹き概ね曇天にして木浦に降雨せり

西の宮お樂の述懐（三一）

◎見當違のお咎め

前に申しました通り醉つた勢で旦那樣が時々は若い妓なごにチョッカイを出す事がありますがスルト奥樣がソレと覺つて直ぐ私の家へお使を寄越しまして『おらくお前に那れ程頼んで置いたのに今度の一條はマア如何したものだ』などゝいふお叱りを蒙るのでムいます、イヤもうやり切れたものぢやありませんサテ奥樣方では隨分吹き出すやうな事が御座いました此れは只今では大將にお成り遊ばした佐久間樣の奥樣でしたがネ……其の時分はまだ仙臺にお住まひでムいましたので時折旦那樣と御一所で宜くお茶屋さんへお遊びにお出でになる、スルト何時でも私が其の相手に聘れ〳〵して居りました或日の事矢張旦那樣と御一所で私をお相手に打ちくつろいでお遊びでムいましたが日頃はお強い旦那樣が什麽したものか酷くお醉ひになつて便所においでになるにも何だかブラ〳〵としておあぶない有樣なんでムいますソレでなくともお附申すのが私共の役ですから『マアお危ふムいます……』と其の後からお附き申して階子段を下りましたが便所にお出でになる筈の旦那樣が方角變ひの小座敷にお這入りになりますから『アラ其方ではムいませんよ』と私が追ひ縋ると『オイ〳〵静にせんか』といつてお止めになり『コレ耳を……』おつしやるのでムいます、私は何の氣なしに『ハイ』といつて其の通りにいたしますと『……分つたか奥に知らせないやうにして彼の妓を此處へ……宜いか』との御命令なんでムいます私も此れには弱つちまいましてネ『ソリやイケマせん……奥樣も御一所に入らつしやつてソンな事をなすつちやア……』と一生懸命になつてお止め申して見ましたが何にしろお酒機嫌でいらつしやるからドウしてナカ〳〵思ひ止まる所ぢやアありません無據御命令通り取りはからひましたが私も此れには大弱りしましたソコへ行くと殿方は一向平氣なもので『ドウも御苦勞だつたデは二階へ上ろうかな』とヅン〳〵お獨りで二階へ上つて行くのです私も其の後から尾いで元の坐敷へ這入りますと驚きましたネ奥樣のお顔に稲妻がして居て私が坐るか坐らないのに『此れらく……お前マー其所へお出でお前といふものはホト〳〵愛想がつきました一体今迄旦那樣と一所に何所へ行つて居たのです……成程便所が長いといつて斯う時間がかゝる筈はない……私といふものを前に置きながら大ソレた眞似をするぢやアないか……アヽ此れだから賤しい女には氣が許せんといふのだ……』と飛んだ見當違ひのお叱りを受けましたので私も不思グッと胸に來ましたネ（つゞく）

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰二行以上五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門洞 電話六六三番